

# 資源ごみ回収施設再編行動計画(案)

## 1. 計画の目的

本行動計画は、公共施設適正配置計画（以下「適正配置計画」という。）に基づき、資源ごみ回収施設の再編・再配置を進めるにあたり、諸課題を整理するとともに、課題解決に向けて市等が取り組む具体的な方策やスケジュール等を示し、市民・地域など関係者と情報の共有を図り、合意形成のもと、着実に公共施設の再編・再配置を進めることを目的とします。

## 2. 資源ごみ回収施設再編の対応方針及び対象施設の状況の再検証

適正配置計画第2章「施設分類ごとの適正配置方針」に示すように、一般廃棄物のリサイクルを目的とした、資源ごみの回収施設として、各地域に1箇所ずつ設置している施設を対象とし、再編・再配置の対応を検討します。

検討については、適正配置計画に掲げる基本的な考え方に示すとおり、回収方法の多様化の現状を具体的に再検証した上で進めることとします。

### (1) 対象施設の状況（詳細は、適正配置計画 303～307 ページを参照してください。）

施設名	地域	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	今後の方針		利用者数
				機能	施設	
① 八幡エコプラザ	八幡	6	331.96	継続	検討	9,868 人
② 大和エコプラザ	大和	18	173.90	継続	検討	6,649 人
③ 明宝エコプラザ	明宝	16	261.00	継続	検討	1,488 人
④ 白鳥エコプラザ	白鳥	48	4319.20 の一部	継続	検討	5,369 人
⑤ 高鷲エコプラザ	高鷲	29	195.56 の一部	継続	検討	147 人
⑥ 美並エコプラザ	美並	36	699.00 の一部	継続	検討	331 人
⑦ 和良エコプラザ	和良	57	1293.11 の一部	継続	検討	1,259 人

※公共施設適正配置計画より。築年数は、2019年（令和元年）現在

### (2) 郡上市公共施設適正配置計画における対応方針

エコプラザの開設日・受け入れ時間は、施設によって違いがありますが、管理はすべて直営で行い、資源ごみの回収、集積、計量等の業務についてはシルバー人材センターに委託して行い、委託費を含む管理運営費は2,096千円となっています。

回収ごみは、段ボール、新聞紙、雑誌等の古紙（一部でペットボトル等）で、各エコプラザで回収する資源ごみの利用者数は約25,200人、全体の回収量は約1,742tとなっています。

なお、回収した資源ごみは、リサイクル業者との契約により処理し、有価物の売り払い代金として5,078千円の収入があります。

資源循環型社会を継続する上で、身近な場所での資源ごみの回収機能は今後も必要ですが、市では、7か所のエコプラザに加え、より小さな生活圏（地区など）に設置するごみステーションでも曜日を決めて資源回収を実施していること、小学校や社会福祉法人等が行う資源回収の取り組みや、民間事業者による資源回収ボックスの設置により、全体的にエコプラザの利用が減少傾向にあることなどから、適正配置計画では次のとおり基本的な対応方針を示しています。

広範な郡上市において資源循環型社会を持続するため、身近な場所における資源ごみ回収機能の継続は必要ですが、回収方法が多様化している現状を踏まえ、資源回収のあり方、市民協働を含む公と民の役割分担について検討し、施設の統合を含めエコプラザのあり方を検討します。

### (3) 対象施設の利用実態及び課題（令和元年度）

後述する「3. 再編・再配置のシナリオとスケジュール」において、個々の施設の最終的な再編の取組みの妥当性を検証するため、現時点（令和元年度実績）における各7施設で実施している施策や事業内容、及び課題について整理します。加えて、学校や社会福祉法人等が行う資源回収の取組みの状況、民間が設置する資源回収ボックスの実態と課題について示します。

#### ① 八幡エコプラザ

施設の概況【	構造	○鉄骨造平屋建て、延床面積 332 ㎡ ○平成 25 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 6 年経過。
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎週日曜日(年末年始を除く)9時から16時まで
	管理・運営	○管理運営は直営（シルバー人材センターに委託） ○管理運営費 1,028 千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約 9,900 人が利用 ○古紙、ペットボトル、食品用トレイ、発泡スチロール、古着・古布、蛍光管等を収集

#### ② 大和エコプラザ

施設の概況【	構造	○鉄骨造平屋建て、延床面積 174 ㎡ ○平成 13 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 18 年経過
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎週日曜日(年末年始を除く)9時から12時まで
	管理・運営	○管理運営は直営（シルバー人材センターに委託） ○管理運営費 280 千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約 6,600 人が利用 ○古紙、ペットボトル、食品用トレイ、発泡スチロール、古着・古布、蛍光管等を収集

#### ③ 明宝エコプラザ

施設の概況【	構造	○鉄骨造平屋建て、延床面積 261 ㎡ ○平成 15 年に新耐震基準で建設した建物で、建築から 16 年経過
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎月第 2 水曜日、第 3 日曜日(年末年始を除く)9時から11時30分
	管理・運営	○管理運営は直営（シルバー人材センターに委託） ○管理運営費 108 千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約 1,500 人が利用 ○古紙、ペットボトル、食品用トレイ、発泡スチロール、古着・古布、蛍光管等を収集

④ 白鳥エコプラザ

施設の概況【	構造	○白鳥庁舎南側車庫の一部(鉄骨造平屋建)
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎週火曜日、毎月第2・4日曜日(年末年始を除く)9時から12時
	管理・運営	○管理運営は直営(シルバー人材センターに委託) ○管理運営費 410千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約5,400人が利用 ○古紙、ペットボトル、食品用トレイ、発泡スチロール、古着・古布、蛍光管等を収集

⑤ 高鷲エコプラザ

施設の概況【	構造	○高鷲庁舎東側車庫の一部(木造平屋建)
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎月第1・3日曜日(年末年始を除く)9時から12時
	管理・運営	○管理運営は直営(シルバー人材センターに委託) ○管理運営費 65千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約150人が利用 ○古紙、ペットボトル、食品用トレイ、発泡スチロール、古着・古布、蛍光管等を収集

⑥ 美並エコプラザ

施設の概況【	構造	○美並北部コミュニティセンターの一部(鉄骨平屋建)
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎月第2・4日曜日(年末年始を除く)9時から11時30分
	管理・運営	○管理運営は直営(シルバー人材センターに委託) ○管理運営費 54千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約330人が利用 ○古紙を収集

⑦ 和良エコプラザ

施設の概況【	構造	○旧和良庁舎の地下倉庫(鉄筋コンクリート造)
	利用時間	○開館日・開館時間は、毎月第1・3日曜日(年末年始を除く)8時30分から12時
	管理・運営	○管理運営は直営(シルバー人材センターに委託) ○管理運営費 151千円 ○収入：なし
	施設内の機能	○約1,300人が利用 ○古紙、ペットボトル、食品用トレイ、発泡スチロール、古着・古布、蛍光管等を収集

- ◆ 廃品回収等の資源回収の取り組みについては、市内の小・中学校がPTA活動において、廃品回収として資源物の回収をおこなっています。
- ◆ 民間事業者が資源回収ボックスを市内に設置していますが、現在届出報告義務はなく正確な箇所については把握していないことから、今後報告方法等を検討していきます。

### 3. 各施設の再編・再配置のシナリオとスケジュール

適正配置計画における対応方針と対象施設の再検証の状況から、郡上市の7施設のあり方にかかる検討課題を以下のポイントで整理し、全体的な方向性を示したうえで、個々の建物の具体的な再編・再配置のシナリオを示します。

#### (1) 全体的な方向性について

広範な郡上市において資源循環型社会を持続させるため、身近な場所における資源ごみ回収の機能の継続は必要ですが、回収方法が多様化している現状を踏まえ、資源回収のあり方、市民協働を含む公と民の役割分担について検討し、施設の統合を含めあり方を検討します。

#### ア) 資源ごみ回収施設の統合・複合化について

資源ごみの回収状況・回収実態の検証を行い、エコプラの統合・複合化の検討を令和5年度までに実施します。

#### (2) 全体の方向性を踏まえた各施設個別の課題と取組みについて

##### ① エコプラザ

##### 【適正配置計画における対応方針】

- 資源ごみの回収機能は継続します。
- 施設は、継続をしながら、他の資源回収方法の状況を検証し、検証結果を踏まえ、エコプラザの統合・再編、複合化について検討します。
- 今後の施設の在り方、他の資源回収の状況を踏まえ、効果的・効率的な管理運営手法を検討します。

##### 【行動計画】

- エコプラザの利用実態、通常のごみ収集による資源ごみ回収の状況、民間等が実施する資源ごみ回収の実態等を検証し、エコプラザの統合、複合化を検討します。

#### (3) スケジュール（ロードマップ）

10年間（令和元年度～令和10年度）の主な取り組みを以下に示します。

施設名等	R3年度～R5年度	R6年～R10年度
資源ごみ回収状況、民間等の回収実態の検証	→→→ 回収状況、民間等回収実態の検証	
資源ごみ回収方法の検討	→→→ 回収方法の検討	→→→→→ 回収方法の検討結果を踏まえた統合・複合化検討、実施

### 4. 再編・再配置に向けて

「3. 各施設の再編・再配置のシナリオとスケジュール」に示すように、各施設の具体的な取り組みと工程表を示しましたが、この再編・再配置を進めていくうえでは、以下の課題への対応と同時に、地域住民・関係者との合意形成が重要となります。

諸課題に対する対応の方向性とスケジュールを示すとともに、上記に記載のロードマップに基づき、以下のように関係団体等と協議のうえ合意形成を図り、令和10年度までの再編を図ります。

## (1) 諸課題への対応

### ① 資源回収方法の見直し

資源回収方法については、現在市民各自での直接持ち込みを継続しますが、収集品目については、各施設で若干のばらつきがあるため資源回収品目の平準化を図ります。

### (2) 関係団体等との協議

本行動計画を着実に推進していくためには、市民・地域との合意形成が不可欠です。令和4年4月以降、関係団体との調整をするほか、下記の諸団体との協議をきめ細かく進めます。

団体等	説明・協議内容
市民	施設統合の広報・周知
各振興事務所	自治会等との協議
環境課	条例の改定

### 参考：庁内検討体制

項目	分野	課名
責任課 (取りまとめ)	全体調整、地域・団体等調整、 施設運営管理統括	環境水道部環境課 各地域の振興課
主幹課 (施設利用)		
関係課 (全体調整)	財政計画、予算	総務部 財政課
	公共施設管理	総務部 契約管財課
	譲渡の条件設定	企画課(必要に応じて公共施設アドバイザー)
	適正配置計画の進捗管理	企画課(必要に応じて公共施設アドバイザー)